

「道」と聞いたとき頭に思い浮かぶ道が二つある。それは、目で見える道と見えない道だ。まず、目に見える道とは簡単に言えば道路のことである。実際に人が歩くところ、車が通るところといった、外に出れば誰もが目にして通るところ。整備がされていて歩きやすかったり、デコボコしていて歩きにくかったりする。これが頭に浮かぶ一つの道である。

次に、目に見えない道とはある目的や結果に行きつくための道すじや過程のことである。実際に足で歩くことはできない道である。自分の目的を達成するために行っていく過程だけでなく、今まで生きてきた過程のこともいう。

二つの道は、目で見えるものと見えないものという正反対の意味を持っている。意味だけでなく、「道」という漢字の前につく言葉にも違いがある。例えば「歩」という漢字である。目に見える道の場合、「歩く道」と書く。読み方は「あるく道」。しかし、目に見えない道の場合、「歩む道」と書く。読み方は「あゆむ道」である。漢字一文字を加えただけなので違う読み方になっているのである。「歩く」は、足を使って前に進むこと。つまり、目に見えないものである。それに比べて「歩む」は、物事が進行すること。つまり、目に見えないものである。道の上につく漢字の意味でその言葉の「道」の意味も変わってくる。

そこで、一つの疑問がある。例で出したものは「歩く」か「歩む」かでどちらの道かを判断していた。しかし、「私の道」と聞いたときはなぜか、目に見えない道のことだと思ってしまう。それは、どうしてなのか。目に見える道つまり道路は、全員が同じ道を使っている。一人一人に違う道、道路があるわけではない。だが、目に見えない道はその人一人の道である。目的を達成するまでの過程といったように、一人一人の目的も違えば過程も違くなってくる。そのため、全員が全く同じ道を通れることはない。だから、「私の道」と聞くとその人自身の道であるということが分かる。

「道」と聞いたとき、頭に思い浮かぶ道が二つあっても、すぐにどっちの道のことか分かるのは、道と一緒に使う漢字や意味を読み取っているからである。目に見える見えないは関係なしに、道は人生にとって大切なものである。これから私は、「歩く道」だけでなく、「私の道」を大切に歩んでいきたい。